

決戦非常措置要綱 昭和十九年二月二十五日閣議決定抄錄

決戦ノ現状階ニ即應シ國民即戰士ノ覺悟ニ徹シ國ヲ擧ゲテ精速刻苦其ノ
絶力ヲ直接戰力増強ノ一點ニ集中シ當面ノ各緊要施策ノ急速徹底ヲ圖ル
ノ外先づ左ノ非常措置ヲ講ズ

二、國民勤労監制ノ刷新

職業轉換、適正配置並ニ勤労管理特ニ學徒、女子及懶散者等ニ關スル
受入體制ノ急速ナル刷新強化ヲ國ルト共ニ家庭ノ根柢タル者ヲ除ク女
子ノ女子挺身隊強制加入ノ途ヲ拓キ且之ニ即應シテ自粛訓ノ指導、幹
旋、保護ノ元實ニ遺憾ナカラシム。

右ニ關スシ速ニ動員機構ヲ整備シ特ニ軍動員トノ關係ノ緊密化ヲ圖ル。

三、防空監視ノ強化

- (3) 重要工場ニ付能フ限リノ防空施設ヲ行フト共ニ工場防空組織ヲ完備スル等工場防空ノ急速ナル強化ヲ圖ル

(2) 空襲被害極限等ニ付テノ準備訓練ヲ徹底ス

(3) 空襲ニ依ル物的被害ノ修理復舊、食糧配給ノ確保ハ救護、空襲時用簡易住宅ノ建設等空襲時ノ善後措置ニ關スル準備ノ急速完成ヲ圖ル

(4) 一般駆除ノ實施ヲ強度ニ促進スルト共ニ第二次官國駆除、脆弱木造官國建物ノ移築除却、就労會又ハ開設建物及地方會社出張所、社交俱樂部等ノ整理ヲ行フ

(5) 老弱、精神病院、刑務所等（生産ニ影響ナキモノ）ハ極力速ニ地方ニ駆除又ハ整理セシム。

(6) 空襲被害ニ備ヘ近府縣農村又ヘ小都市所在ノ親戚、知人ノ許ニ最少

四 限 必要ノ衣類身廻品ヲ預託スルコトヲ徹底セシム

(7) 前各項ノ外防空並ニ駆除ニ付急速徹底セル各般ノ措置ヲ講ズ

四 簡素生活徹底ノ覺悟ト食糧配給ノ改善整備

(1) 時局突破ノ爲ニハ國民生活ヲ徹底的ニ簡素化シ第一線將兵ノ困苦缺乏ナ想ヒ如何ナル生活ニモ附フルノ覺悟ヲ固メシム

(2) 大都市ニ於ケル當面食糧ノ配給ノ改善特ニ少年等ニ對スルモノニ付格段ノ措置ヲ講ズ

(3) 諸類ノ乾燥、魚類ノ醃漬等食糧ノ加工貯藏ヲ徹底ス

七 高級享樂ノ停止

高級料理店待合ハ之ヲ休業セシム、又高級興行歌樂場等ハ一時之ヲ閉鎖シ其ノ施設ハ必要ニ應ジ之ヲ他ニ利用スルト天ニ其ノ關係者ハ

西日本新聞 (19.2.23. 朝)

今さま

作戦の要求に即應
強力施策を斷行
後顧の憂無からしめん

事業場を巡察

の通報の現地指揮を主眼とし、中央の行政方針を軍隊社會の末端まで通達ししめるとともに、工場官吏の激励をも通じて、幹部管理の問題などは、その本質からいへば、軍隊監督部の問題である。そこでこれを實施するものとし、改進を要する事項は一定期間を附して施行せしめる。在籍員の改進は軍隊管理部（成は山川監督部）を主導とし、連絡、地方幹部および統制部の問題責任者の能力をも考慮して、改進は最も早くまで行なへることを期す。

重刊美學文選

卷之三

1

文

1

西日本新聞 (P.2.23. 朝)

今にさまる國帝隆替ののち
相首猛勇・進先の決意闡明



作戦の要求に即應

後顧の憂無からしめん

東條首相發言要旨

戦局は眞に重大である。敵はすでにマーシャル封鎖を施し、その後ひそかにドランクの艦隊を遣つたことは御承知の通りである。敵の反攻はもとより豫期しておいたところであるが、この戦局の現段階は眞に深刻であつて決して樂觀を許さないものがある。この憂愁を胸につぶさむために公論の道は開かれてゐるやうである。今や正に帝國は文字通り全晉の技路に立つてゐるのである。

この秋にまで至り、敵襲と敵襲の攻撃が、頻繁に繰り返され、作戦は、いかにも、敵襲の大軍が、いつ何時何處で現れるか、予測が立てないままの状態となつた。そこで、敵襲の大軍が、いつ何時何處で現れるか、予測が立てないままの状態となつた。そこで、敵襲の大軍が、いつ何時何處で現れるか、予測が立てないままの状態となつた。

今後閣議は宮中に開催

として如何なる困難の點も認められぬ次第で、思ひ立つて作風の変更を記念するに至つたのである。

裏面白紙

朝日新聞(1926年2月26日)

文書の整理

官廳廢棄物の再活用

「廳の文書物品等の整理並に其積極的活用供出に關する件」

記載、標識等に於ける高級官吏により文書及物品の整理並にその利用供出を行ふもの

官廳の保存文書に於ける取扱を加へるに必要なもの以外

機これを廃棄するもの

の文書等に關する規則等は必ずしも通じて改正の意

願してはいたが、調査を區すこと

物を一枚以上數枚に分割して離して三角束縛し五箇

底十五〇匁の二枚上マガ

セ紙約一〇メートル位マ油紙一

枚又は二枚縛縫(反古紙など)

油紙つたもの、もとより

マタキローム等マ三角束縛

機械を用ひたるもの、もとより

組や家庭に以上の材料を充備しておるが無いかは三十日以内に

五箇防空強化日は、監督、町會指

揮係員および幹部等が一せん監

視を實施されを存続せしもの

はおろん、とくに大審院の普

及を圖るほか頗るとも一回の方

へ欣然として最も強烈の第一線に

挺身しておられたが、今は同

の組織はもとより高級官吏等

止のみを除くもので、大衆の風氣

は依然として最も強烈の第一線に

あるが、まだ遠慮ないもの

機械を實施することはないもの

であるが、まだ遠慮ないもの

機械を實施することはないもの

であるが、これほどのよそ見算はず

ればならないものがある

が、これほどのよそ見算はず

れば、これが早ければ四五

日後、地方地頭開拓費の發行、

開拓の三民と國民の者、大正

方から被災、一戸一帳半廻した

○工場が設立同工場は國家、工

場など大規模十戸を起、一戸一戸半

廻して同一時十五戸を起したマナ

リ

開設時五分、廻す時間は五時

開設時五分、廻す時間は五時</

決戦生活へ非常措置 決定 要綱

勤労、防空を徹底

享樂追放、困苦に勝つ

政府は二十五日初の軍事における軍事指揮において決戦内閣指揮官としての決戦要綱を発表する。この内容を説明し、東條内閣はじめ各機関より演説が行われた。また、この決戦生活の観察を開始し、正式にこれを開設した。ついで同日午後、情報局より左のとおり発表された。政府はいよいよ同要綱を二月一日より逐次実施し、翌日午後、正式にこれを開設した。政府はいよいよ同要綱を二月一日より逐次実施し、翌日午後、正式にこれを開設した。政府はいよいよ同要綱を二月一日より逐次実施し、翌日午後、正式にこれを開設した。

第一 情報局発表

第二 決戦非常措置要綱 (情報局発表)

第三 勤労、防空を徹底

第四 享樂追放、困苦に勝つ

第五 勤労、防空を徹底

第六 享樂追放、困苦に勝つ

第七 勤労、防空を徹底

第八 享樂追放、困苦に勝つ

第九 勤労、防空を徹底

第十 享樂追放、困苦に勝つ

第十一 勤労、防空を徹底

第十二 享樂追放、困苦に勝つ

第十三 勤労、防空を徹底

第十四 享樂追放、困苦に勝つ

第十五 勤労、防空を徹底

第十六 享樂追放、困苦に勝つ

第十七 勤労、防空を徹底

第十八 享樂追放、困苦に勝つ

第十九 勤労、防空を徹底

第二十 享樂追放、困苦に勝つ

第二十一 勤労、防空を徹底

第二十二 享樂追放、困苦に勝つ

第二十三 勤労、防空を徹底

第二十四 享樂追放、困苦に勝つ

第二十五 勤労、防空を徹底

第二十六 享樂追放、困苦に勝つ

第二十七 勤労、防空を徹底

第二十八 享樂追放、困苦に勝つ

第二十九 勤労、防空を徹底

第三十 享樂追放、困苦に勝つ

第三十一 勤労、防空を徹底

第三十二 享樂追放、困苦に勝つ

第三十三 勤労、防空を徹底

第三十四 享樂追放、困苦に勝つ

第三十五 勤労、防空を徹底

第三十六 享樂追放、困苦に勝つ

第三十七 勤労、防空を徹底

第三十八 享樂追放、困苦に勝つ

第三十九 勤労、防空を徹底

第四十 享樂追放、困苦に勝つ

第四十一 勤労、防空を徹底

第四十二 享樂追放、困苦に勝つ

第四十三 勤労、防空を徹底

第四十四 享樂追放、困苦に勝つ

第四十五 勤労、防空を徹底

第四十六 享樂追放、困苦に勝つ

第四十七 勤労、防空を徹底

第四十八 享樂追放、困苦に勝つ

第四十九 勤労、防空を徹底

第五十 享樂追放、困苦に勝つ

第五十一 勤労、防空を徹底

第五十二 享樂追放、困苦に勝つ

第五十三 勤労、防空を徹底

第五十四 享樂追放、困苦に勝つ

第五十五 勤労、防空を徹底

第五十六 享樂追放、困苦に勝つ

第五十七 勤労、防空を徹底

第五十八 享樂追放、困苦に勝つ

第五十九 勤労、防空を徹底

第六十 享樂追放、困苦に勝つ

第六十一 勤労、防空を徹底

第六十二 享樂追放、困苦に勝つ

第六十三 勤労、防空を徹底

第六十四 享樂追放、困苦に勝つ

第六十五 勤労、防空を徹底

第六十六 享樂追放、困苦に勝つ

第六十七 勤労、防空を徹底

第六十八 享樂追放、困苦に勝つ

第六十九 勤労、防空を徹底

第七十 享樂追放、困苦に勝つ

第七十一 勤労、防空を徹底

第七十二 享樂追放、困苦に勝つ

第七十三 勤労、防空を徹底

第七十四 享樂追放、困苦に勝つ

第七十五 勤労、防空を徹底

第七十六 享樂追放、困苦に勝つ

第七十七 勤労、防空を徹底

第七十八 享樂追放、困苦に勝つ

第七十九 勤労、防空を徹底

第八十 享樂追放、困苦に勝つ

第八十一 勤労、防空を徹底

第八十二 享樂追放、困苦に勝つ

第八十三 勤労、防空を徹底

第八十四 享樂追放、困苦に勝つ

第八十五 勤労、防空を徹底

第八十六 享樂追放、困苦に勝つ

第八十七 勤労、防空を徹底

第八十八 享樂追放、困苦に勝つ

第八十九 勤労、防空を徹底

第九十 享樂追放、困苦に勝つ

第九十一 勤労、防空を徹底

第九十二 享樂追放、困苦に勝つ

第九十三 勤労、防空を徹底

第九十四 享樂追放、困苦に勝つ

第九十五 勤労、防空を徹底

第九十六 享樂追放、困苦に勝つ

第九十七 勤労、防空を徹底

第九十八 享樂追放、困苦に勝つ

第九十九 勤労、防空を徹底

第一百 享樂追放、困苦に勝つ

第一百一 勤労、防空を徹底

第一百二 享樂追放、困苦に勝つ

第一百三 勤労、防空を徹底

第一百四 享樂追放、困苦に勝つ

第一百五 勤労、防空を徹底

第一百六 享樂追放、困苦に勝つ

第一百七 勤労、防空を徹底

第一百八 享樂追放、困苦に勝つ

第一百九 勤労、防空を徹底

第一百二十 享樂追放、困苦に勝つ

第一百二十一 勤労、防空を徹底

第一百二十二 享樂追放、困苦に勝つ

第一百二十三 勤労、防空を徹底

第一百二十四 享樂追放、困苦に勝つ

第一百二十五 勤労、防空を徹底

第一百二十六 享樂追放、困苦に勝つ

第一百二十七 勤労、防空を徹底

第一百二十八 享樂追放、困苦に勝つ

第一百二十九 勤労、防空を徹底

第一百三十 享樂追放、困苦に勝つ

第一百三十一 勤労、防空を徹底

第一百三十二 享樂追放、困苦に勝つ

第一百三十三 勤労、防空を徹底

第一百三十四 享樂追放、困苦に勝つ

第一百三十五 勤労、防空を徹底

第一百三十六 享樂追放、困苦に勝つ

第一百三十七 勤労、防空を徹底

第一百三十八 享樂追放、困苦に勝つ

第一百三十九 勤労、防空を徹底

第一百四十 享樂追放、困苦に勝つ

第一百四十一 勤労、防空を徹底

第一百四十二 享樂追放、困苦に勝つ

第一百四十三 勤労、防空を徹底

第一百四十四 享樂追放、困苦に勝つ

第一百四十五 勤労、防空を徹底

第一百四十六 享樂追放、困苦に勝つ

第一百四十七 勤労、防空を徹底

第一百四十八 享樂追放、困苦に勝つ

第一百四十九 勤労、防空を徹底

第一百五十 享樂追放、困苦に勝つ

第一百五十一 勤労、防空を徹底

第一百五十二 享樂追放、困苦に勝つ

第一百五十三 勤労、防空を徹底

第一百五十四 享樂追放、困苦に勝つ

第一百五十五 勤労、防空を徹底

第一百五十六 享樂追放、困苦に勝つ

第一百五十七 勤労、防空を徹底

第一百五十八 享樂追放、困苦に勝つ

第一百五十九 勤労、防空を徹底

第一百六十 享樂追放、困苦に勝つ

第一百六十一 勤労、防空を徹底

第一百六十二 享樂追放、困苦に勝つ

第一百六十三 勤労、防空を徹底

第一百六十四 享樂追放、困苦に勝つ

第一百六十五 勤労、防空を徹底

第一百六十六 享樂追放、困苦に勝つ

第一百六十七 勤労、防空を徹底

第一百六

<p>防空の急迫なる強化を圖る。 防空に付ての演習訓練を強化。 物的被災の修理復旧、食糧供給の確保、救護、空 港設置空襲時の避難誘導に関する準備の急務を取 り組む。</p>	<p>東洋を強度に侵進する。兵は第3次宣戰聲明、陸 軍解除令、以前よりは團体組織及地方會社出張所 等を行ふ。 神病院、刑務所等（生産に影響なるもの）は極力 遠に地方に隠避または整理せしむ。</p>
<p>本 箇 年 一 不 敢 に 實 踐 事 業 相 が 地 東 に 感 じ る と ど る 方 通 明 し 昨 年 次 界 に 移 動 化 化 底 せ し 年 に 非 常 な の で 國 の い か れ る よ く 深 刻</p>	<p>貢献を加へる重大戦局に対處し、 最後の勝利に向つて奮闘する決戦 期となることが期待される。しか しやは運行にある、この非常措置 が過渡的確に定して実行される には政府ならびに監督官体の果 敢なる実戦力を先駆條件とする、 これが豈なる企図終らず速かに 実行移されることを當局に要請 すると共に國民もなる政府の制 度の忠誠心をもつて不足を不足させ ず能く実現の抜くことが要請さ れることは大原則の い。</p>
<p>高級官吏が地元に於ける活動を強化する。</p>	<p>（1）時局變容のためには國民生活を徹底的に簡素化し、第3線沿岸 の困難解決及び如何なる生活も耐えるの準備を固めしむ。 (2) 大都市における貧困食糧の配給の改善特に少年等に対するもの に付着度の指針を設す。 (3) 飲食の乾燥、魚類の鹽漬等食糧の加工貯蔵を徹底す。</p>
<p>五、空域利用の徹底</p>	<p>家庭、職場、學校、青年團、壯年團、老健團、國防その他を動 かし特に大都市における公演、講演、花卉園等は勿論核庭、工場周 辺及び他の空域は徹底的に食糧作物を利用してしむ。</p>
<p>六、製造禁止品目の擴大と規格統一</p>	<p>中央各官署の許可等監禁の事務は常備一年間原則として解てし まほ右に記述し原則として就續り一年間官署新規監禁工作はこれを 休止し又開明的委員會の停止等を行ふものとす。</p>
<p>七、高級享樂の停止</p>	<p>中央各官署の許可等監禁の事務は常備一年間原則として解てし まほ右に記述し原則として就續り一年間官署新規監禁工作はこれを 休止し又開明的委員會の停止等を行ふものとす。</p>
<p>八、重點輸送の強化</p>	<p>中央各官署の許可等監禁の事務は常備一年間原則として解てし まほ右に記述し原則として就續り一年間官署新規監禁工作はこれを 休止し又開明的委員會の停止等を行ふものとす。</p>
<p>九、海運力の刷新強化</p>	<p>中央各官署の許可等監禁の事務は常備一年間原則として解てし まほ右に記述し原則として就續り一年間官署新規監禁工作はこれを 休止し又開明的委員會の停止等を行ふものとす。</p>
<p>満洲行政の開拓擴張を行ふと共に船舶建造の急務増加と船舶運動效 率の長期的向上を図り以て海運力の整備充實を圖る。</p>	<p>（附）國庫監察の筋路に際し國庫監査の當局に於て終日監視の本 制を強化しその能力を廃して、税力強化、食糧増產、労働の強化に 適進すと共に時局變容の為國民生活を徹底的に強化しめる。</p>

享樂追放の実施要綱成る

官吏常時執務・張出限制文書整理に共に

政府が大東亞地域内蔵、國家の統一を目的として、

総括する

規則

の実施要綱

を定め、

規則

裏面白紙

いふ」とか御奉公の実証と存する、收々體する
から、從來の
いたゞめたし
しや國方々を戰事
試に胎す
出しても度て過度ではない。危険の事態と詮み御下の注目
するものは皆國寶の題色である。地獄宮として堅固なる決意を以て
國々手にして所領を實行するの堅田より大なるはなしと存がる

釋名卷之三

は私とし
これが具
して今日の活動が何事かしわれわれが一大懸念心を抱ておる事である。秋田には必ずや開拓打開の道があるのである、私はじつに貴重の方と共に、活動を廣く展ひて、一層堅固の決意を新たにし政農兩路の一致を文字通り具現し、あくまでも積極果斷なる施策に當り以致て開拓の目的を達成して耕農を安んじ得ることを圖くするが策である。

享樂追放の実施要綱成る

に共理整書文・限制張出・務執時常吏官

**料理店、待合、置屋等
一年間營業休止**

三月五日實施

官廳の非常

官廳の常時執務に關する件

廣雅卷之二

常時執務の職員を除く

に交代して休日を與ふる。三

本件は本年二月一日より之を廃止する。

卷之三

裏面

裏面白紙

昭和六年七月二十六日 朝日新聞 朝刊

官民「決戦」に徹せよ

・ 平時的手法、一擲の段階

内閣改造に引継ぐ新幹と國務の緊密化により、重大難局に感する東
條内閣改選の布陣は、成った。改進後初の議院において東條首相
は「この重大時に處する方針については既に考る所あり、至急
これが具体的方針につき研究させてゐる」旨力強く発言し、東條改
善の秋に際して断然たる自信と決意を表明した文部省改選以來すでに
六年半、大變態競争となつてからも早くも一年を経し、その間國內
態勢は強化の一途を辿つて國家能力の動員はまことに目覺まし
かうした手がまた残されてゐる。しかし我が國の強味
いふ事実は、かつては國の強味
いふに死へば食糧問題をとつて著
れてゐる。

ものが、然しこの難局突破のためだけに打つぐぐと打たれない手
がまだありはしない。たゞ如く猛烈なる決戦下の今日においては
直ぐ効果をあげるものではなくては無意味である。また如何に急速に
大成果を収めるのであつても、そのためには多額の資材、人手を要
するものでは手ひ得ない。急速に効果をあげて、しかも新しい國力
を創造しならうな施政こそ、この闘争に當つて強く要請されるの
だ。

さて、現在國民は記念すべきである。現在國民は記念すべきである。

かならずやうに、現地の人間で開通

して、國民生活の安定が確保さ

れることになら、必要なものは

たゞ頭腦の動員とあくまでもや

り抜く決意のみである。

かうした現地の我々の周囲を見

回して行くと、即刻戦力増強に役

立つべき課題がまた多い。「強

味」をいつまでも體味のまゝで置

いたい。されどこそ逆に弱体にな

べき無駄ではない。されども、生産

においても、生活においても、生産

においても、生産や生活の本筋を握り

ておらぬ、わざと次に語

るに、いふに死へば食糧問題をとつて著

れてゐる。あると、四隅は自由市場

で開けられ、

第三にまだ我々の周囲には、

第四にまだ我々の周囲には、

第五にまだ我々の周囲には、

第六にまだ我々の周囲には、

第七にまだ我々の周囲には、

第八にまだ我々の周囲には、

第九にまだ我々の周囲には、

第十にまだ我々の周囲には、

第十一にまだ我々の周囲には、

第十二にまだ我々の周囲には、

第十三にまだ我々の周囲には、

第十四にまだ我々の周囲には、

第十五にまだ我々の周囲には、

第十六にまだ我々の周囲には、

第十七にまだ我々の周囲には、

第十八にまだ我々の周囲には、

第十九にまだ我々の周囲には、

第二十にまだ我々の周囲には、

第二十一にまだ我々の周囲には、

第二十二にまだ我々の周囲には、

第二十三にまだ我々の周囲には、

第二十四にまだ我々の周囲には、

第二十五にまだ我々の周囲には、

第二十六にまだ我々の周囲には、

第二十七にまだ我々の周囲には、

第二十八にまだ我々の周囲には、

第二十九にまだ我々の周囲には、

第三十にまだ我々の周囲には、

第三十一にまだ我々の周囲には、

第三十二にまだ我々の周囲には、

第三十三にまだ我々の周囲には、

第三十四にまだ我々の周囲には、

第三十五にまだ我々の周囲には、

第三十六にまだ我々の周囲には、

第三十七にまだ我々の周囲には、

第三十八にまだ我々の周囲には、

第三十九にまだ我々の周囲には、

第四十にまだ我々の周囲には、

第四十一にまだ我々の周囲には、

第四十二にまだ我々の周囲には、

第四十三にまだ我々の周囲には、

第四十四にまだ我々の周囲には、

第四十五にまだ我々の周囲には、

第四十六にまだ我々の周囲には、

第四十七にまだ我々の周囲には、

第四十八にまだ我々の周囲には、

第四十九にまだ我々の周囲には、

第五十にまだ我々の周囲には、

第五十一にまだ我々の周囲には、

第五十二にまだ我々の周囲には、

第五十三にまだ我々の周囲には、

第五十四にまだ我々の周囲には、

第五十五にまだ我々の周囲には、

第五十六にまだ我々の周囲には、

第五十七にまだ我々の周囲には、

第五十八にまだ我々の周囲には、

第五十九にまだ我々の周囲には、

第六十にまだ我々の周囲には、

第六十一にまだ我々の周囲には、

第六十二にまだ我々の周囲には、

第六十三にまだ我々の周囲には、

第六十四にまだ我々の周囲には、

第六十五にまだ我々の周囲には、

第六十六にまだ我々の周囲には、

第六十七にまだ我々の周囲には、

第六十八にまだ我々の周囲には、

第六十九にまだ我々の周囲には、

第七十にまだ我々の周囲には、

第七十一にまだ我々の周囲には、

第七十二にまだ我々の周囲には、

第七十三にまだ我々の周囲には、

第七十四にまだ我々の周囲には、

第七十五にまだ我々の周囲には、

第七十六にまだ我々の周囲には、

第七十七にまだ我々の周囲には、

第七十八にまだ我々の周囲には、

第七十九にまだ我々の周囲には、

第八十にまだ我々の周囲には、

第八十一にまだ我々の周囲には、

第八十二にまだ我々の周囲には、

第八十三にまだ我々の周囲には、

第八十四にまだ我々の周囲には、

第八十五にまだ我々の周囲には、

第八十六にまだ我々の周囲には、

第八十七にまだ我々の周囲には、

第八十八にまだ我々の周囲には、

第八十九にまだ我々の周囲には、

第九十にまだ我々の周囲には、

第九十一にまだ我々の周囲には、

第九十二にまだ我々の周囲には、

第九十三にまだ我々の周囲には、

第九十四にまだ我々の周囲には、

第九十五にまだ我々の周囲には、

第九十六にまだ我々の周囲には、

第九十七にまだ我々の周囲には、

第九十八にまだ我々の周囲には、

第九十九にまだ我々の周囲には、

第一百にまだ我々の周囲には、

第一百一にまだ我々の周囲には、

第一百二にまだ我々の周囲には、

第一百三にまだ我々の周囲には、

第一百四にまだ我々の周囲には、

第一百五にまだ我々の周囲には、

第一百六にまだ我々の周囲には、

第一百七にまだ我々の周囲には、

第一百八にまだ我々の周囲には、

第一百九にまだ我々の周囲には、

第一百二十にまだ我々の周囲には、

第一百二十一にまだ我々の周囲には、

第一百二十二にまだ我々の周囲には、

第一百二十三にまだ我々の周囲には、

第一百二十四にまだ我々の周囲には、

第一百二十五にまだ我々の周囲には、

第一百二十六にまだ我々の周囲には、

第一百二十七にまだ我々の周囲には、

第一百二十八にまだ我々の周囲には、

第一百二十九にまだ我々の周囲には、

第一百三十にまだ我々の周囲には、

第一百三十一にまだ我々の周囲には、

第一百三十二にまだ我々の周囲には、

第一百三十三にまだ我々の周囲には、

第一百三十四にまだ我々の周囲には、

第一百三十五にまだ我々の周囲には、

第一百三十六にまだ我々の周囲には、

第一百三十七にまだ我々の周囲には、

第一百三十八にまだ我々の周囲には、

第一百三十九にまだ我々の周囲には、

第一百四十にまだ我々の周囲には、

第一百四十一にまだ我々の周囲には、

第一百四十二にまだ我々の周囲には、

第一百四十三にまだ我々の周囲には、

第一百四十四にまだ我々の周囲には、

第一百四十五にまだ我々の周囲には、

第一百四十六にまだ我々の周囲には、

第一百四十七にまだ我々の周囲には、

第一百四十八にまだ我々の周囲には、

第一百四十九にまだ我々の周囲には、

第一百五十にまだ我々の周囲には、

第一百五十一にまだ我々の周囲には、

ために活用されなければ
き、無駄があると
ない話だが、一方
する半面、工場によ
くてぶらつくして
を決して詳しくない
ジユラルミンの構
造等といふのも改
ではからうか
居こしてもより
は平時なら大いに勤
が、この緊迫せる
りの男女が温泉や
まい、大都會の料
などが股脛を極めて
だる東京である。
個々の場合について
もなる理由のある
が國民が眞に決戦
勝の本質を自覺し

ではあるべきでない。庶民を抑壓する立派な威儀を立つのである。」の如むしたじめ必死な措置を講じるべきであつて、生産と生活の底の決闘性に満遍なくしなければならない。

第三回 国民の躍り上る熱力の結果
には必ず強制的の點はないであらうが、脅威と威嚇と生きてゆけたものへ一人として忠誠の臣たる者はなく、これを全て動搖して絶滅運んでつけだならば我が神は金城武闘場である。今や國民の一人々々が革命に躍り起士である。その能力と勇氣に限り職業修行に積極的協力せしむるやう、機械的に精神的より一段の工夫指導が望まし、

「日本に時代を繰りなす」とは歐米國の根柢知識である。我々は一國も廢帝を放逐を許されない。

卷之三

決戦非常措置要綱 國民卽戦いたれ

一切を直接

内閣總理大臣を始め閣僚と即し、東條首相は去る廿二日の内閣改造後より即ち今日の緊急な状況に對する果斷力な發露によつて必勝の道を明かすべき重大な決意を發揮せり、其の後金剛死を蒙けたが、打崩の方針を急遽大變に実行すべく、大東亞の結束を強化する一方の際、リゼン、ルオットの問題に六十一年六月三十日、東條内閣は金剛を中心とする大臣との間に調整を進めた結果、自の居處の七生院の御所は、我軍指揮總本部を設置、當初長から詳報請の上これを決定し、同日午後二時、我軍一億五千万人の軍隊は、敵に一撃を加へ、我軍非常措置要綱を發表、決戦の現段階に即ち、敵に對し、忠心宣誓を以て、精進刻苦その總力を直接戦力増強の一點に集中し、旨の意に人力を充てせざる爲め、外先づ左の非常措置を講ず。

中等校以上非常勤員

一、學徒動員體制の徹底（^ノは縣として中等學

校程度以上學生生徒はすべて今後二年當時

り働き抜け

（安保大

級料

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道